

第 2 章

2007 年度事業をふりかえって

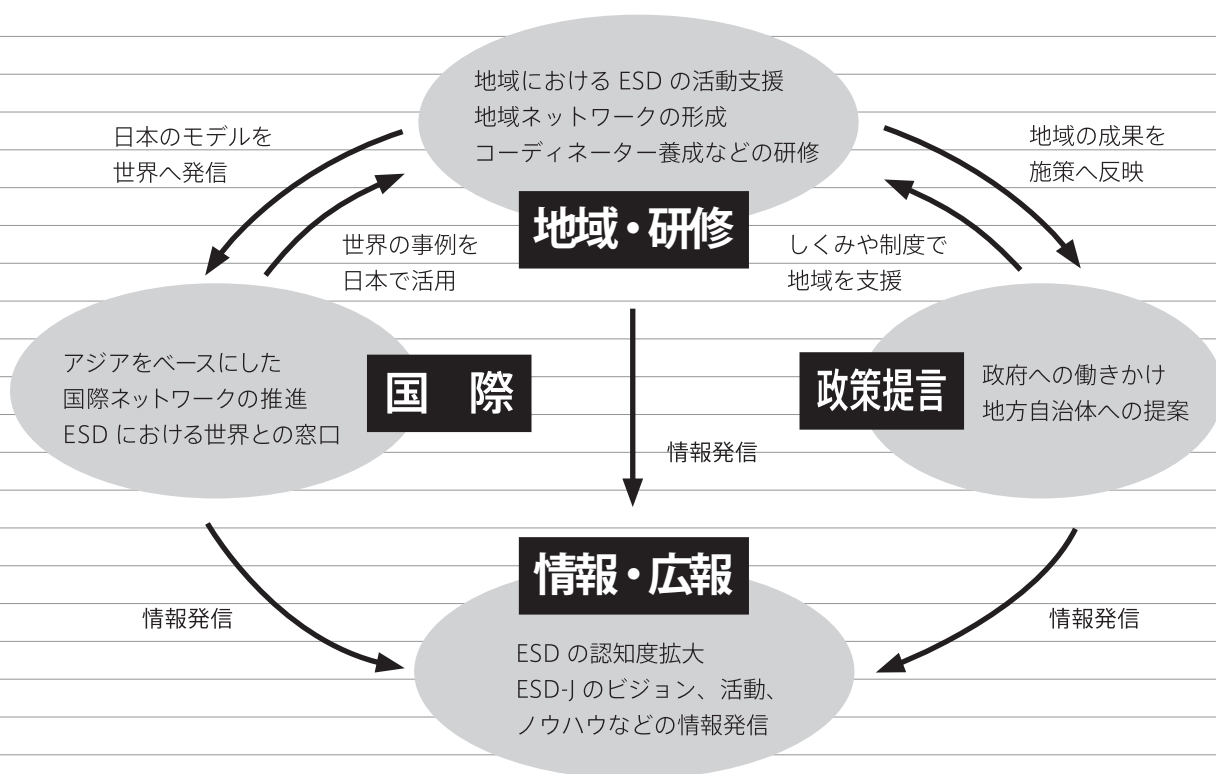
< ESD-J 活動総括 >

ESD を支援するしくみづくり、2 年目

2007 年度は「国および地域レベルの“ESD 推進に必要な支援を提供できるしくみ”を模索し、そのビジョンを形成するための期間」の 2 年目にあたります。この目標達成にむけ、理事会ではそれぞれのプロジェクトチーム（以下 PT）の役割とその関係を下図のように整理し、各 PT の事業が相互的に作用しながら、その成果を高めていくことを 2007 年度の事業方針としました。

今年度の活動をふりかえるにあたり、年度のはじめに立てた目標、そして実際に 1 年間行った活動、それぞれの活動を通じて得られた成果について、整理していきたいと思います。

■ 2007 年度の活動ビジョン



■各プロジェクトチームのミッションと 2007 年度の目標

上記の 2007 年度活動方針にもとづき、事業ごとに次ページのように目標を設定しました。

■各プロジェクトチームの成果と課題

2007 年度に実施したおもな事業を、それぞれの事業区分ごとにふりかえりながら、その成果と課題について整理しました（☞ 40 ～ 45 ページ）。

各プロジェクトチームのミッションと 2007 年度の目標

地域ネットワークの形成
および交流支援事業地域
PT

ミッション 地域（市・町・村・県・ブロック）で ESD 推進のしくみづくりのサポートをする

2007 年度の目標

- 意欲的に ESD のしくみづくりに取り組んでいる地域と協働して、ESD モデル地域づくりに取り組む
- ESD 推進自治体のネットワークづくりに着手する

研修および普及啓発事業

研修
PT

ミッション これまでの成果を活かし、よりいっそうの ESD の理解をすすめ、地域での活動を広げ、つないでいくための研修および啓発事業を行う

2007 年度の目標

- テキストブックを活用した ESD 入門講座のプログラムを開発し、実施する（おもな対象は自治体職員、大学など）
- ESD コーディネーターの役割や技能を明らかにし、コーディネーター入門講座の開発に着手する
- 理事やスタッフを対象に、マネジメント、政策提言力の向上および評価についての研修を行う

国際ネットワーク推進事業

国際
PT

ミッション ESD に関する情報の国際的な受発信の窓口となり、ESD を推進する国際的な NGO ネットワーク（とくにアジア太平洋地域を中心として）の形成と促進を図る

2007 年度の目標

- AGEPP 事業、英文ウェブサイトなどをおして、海外の ESD に関する情報の収集・発信や海外への情報発信を充実させる
- 国際ネットワークカフェや姉妹都市・姉妹校交流事業との連携モデルの検討などをおして、国際的な活動を入り口とした ESD 展開の方向性を模索する
- 国際的なネットワークづくりの意義や方向性をあらためて検討する

政策提言および調査研究事業

政策提言
PT

ミッション 政府、地方自治体、国際機関等を通じて、ESD を推進するしくみをつくる

2007 年度の目標

- 政府の体制強化と官民による協働推進体制の確立を実現させる
- 参議院議員選挙にむけた各政党への政策提言や、議員連盟立ち上げ支援を通じて、政策提言に取り組む
- 環境省 ESD 促進事業・全国事務局の取組みをおして、ESD 推進に必要なしくみなどを抽出する
- 政策提言に必要な国内外の ESD の取組みの調査研究を行う

情報収集・提供および出版事業

情報
PT

ミッション ESD および ESD-J に関する情報の収集・発信を通じて、会員内外へ ESD および ESD-J の理解を促進し、ESD 活動の活性化を図る

2007 年度の目標

- 地域リポーターの育成などをおして情報収集体制の強化を図り、情報ソースの多様化を実現する
- ウェブサイトによる情報提供の強化につとめ、アクセス数を 2 倍にふやすことをめざす
- メールマガジンの発行やウェブの強化をおして、会員外への情報発信の質と量を高めることで、ESD-J の社会的な存在価値を高め、ネットワーク基盤を強化することに努める

地域ネットワークの形成および交流支援事業（地域 PT）

① 地域の ESD モデルづくり協働事業 1：分野連携ワークショップ

78 ページ

新たに ESD 活動をスタートするさいの「分野連携ワークショップパッケージ」（本報告書 2006 年度版参照）を宇都宮、豊田、神戸の 3 地域で実践し、地域の小さな協働プロジェクトを生みだす支援とパッケージの検証を行った。

宇都宮：12/16、12/23 豊田：1/21、2/4、2/18 神戸：3/1、3/2

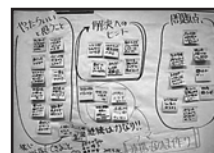


② 地域の ESD モデルづくり協働事業 2：プロセス抽出ワークショップ

58 ページ

既存の ESD 的な学習活動から、ESD が溶け込むプロセスを抽出し、ESD を広げる有益な知見を得ることを目的に、東京の板橋と岡山の京山地区の 2 地域において「プロセス抽出ワークショップ」を開催した。ワークショップを通じて抽出された内容について分析を試み、とりまとめ案を岡山で開催された公民館サミットで発表した。

板橋：7/10、7/16、10/29 岡山：9/24 公民館サミット：11/3



③ 地域の実践交流セミナー（全国ミーティング）の開催

2 ページ

ESD 関係者が集い、ESD-J の活動成果や、ESD のいまを共有し、ESD のこれからを一緒に語り合う交流セミナーを開催した。

3/8~9 開催 参加者：200 名 活動発表：14 件 パネル出席：20 件



④ ESD 推進自治体ネットワークづくりの働きかけ

環境自治体会議（6 月）にて「ESD 推進自治体ネットワークづくり」の呼びかけ文を配布、説明した。また、日野市、豊中市などに個別に働きかけ、自治体としての意見を収集した。

1. ESD 導入パッケージプログラムの試行

会員の協力を得て「分野連携ワークショップ」を 3 地域で実施したこと、さらに豊田市においては、ワークショップを通じて創出されたプロジェクトが現地で展開されていること。今後も、ESD-J 会員とともに、他の地域に拡大していきたい。

2. ESD 推進における 3 つの知見を整理

「プロセス抽出ワークショップ」を通じて、①市民活動や地域づくりにはたす学習の役割の整理 ②地域課題やグローバルな課題を解決するための学習における公共的学習支援機関の役割の整理 ③地域の既存の学習が ESD に発展していくために必要な課題の整理を行うことができた。また、板橋・岡山京山地区のメンバーの ESD の意識化とエンパワーを行うことができた。

3. 全国ミーティングの規模拡大と ESD 研究会の開催

今年度は全国ミーティングの日程を 2 日間に拡大し、内容も参加者も充実できたことは成果であった。また 2 日目に開催した ESD 研究会は、その内容や準備には課題も残るが、会員とともに ESD の内容を深める場づくりを提供したことに意義はあり、会員や参加者どうしが刺激され、問題提起しあえる場となった。

1. 地域の既存の学習が ESD に発展していくために必要な課題 （1）地域の共通の理念をつくり目標を共有する、（2）目標にむけた課題解決のプロセスを学習カリキュラム化する、の 2 つを実践してることが必要
2. 研究会の質を深めていくには、企画を練る段階からの十分な準備と会員の参画（を募ること）と実施時の十分な時間が必要
3. 自治体ネットワークづくりは、自治体側のメリットやニーズの喚起ができていなかった

政策提言および調査研究事業（政策提言 PT）

2007年度の主な事業

①「官民協働による ESD を推進するしくみ」の提言づくり

110 ページ

4/15、9/17、12/16、1/29 政策提言のための理事ミーティングの開催

1/30 「ガソリン税を地球税に」緊急提言

3/9 全国ミーティングの研究会で ESD を深める議論を行った



② 政府の ESD 推進体制強化にむけた働きかけ

102 ページ

< 議員へのおもな働きかけ >

5 月～ 議員連盟の立上げにむけた働きかけ

6 月 参議院議員選挙にむけた各政党への公開質問状提出

6/21 ESD 推進議員連盟発足

2/19 第二回 ESD 推進議員連盟総会開催

< 政府へのおもな働きかけ >

議員連盟を通して円卓会議設置および関係省庁連絡会議の強化を働きかける

1/22 第一回 ESD 円卓会議が実現 3/26 第二回 ESD 円卓会議開催

< 教育行政への働きかけ >

3 月 学習指導要領改訂にむけた提言アクション



③ 環境省 ESD 促進事業（全国事務局）

112 ページ

・ 検討委員会の開催 7/24 第 1 回検討委員会 3/11 第 2 回検討委員会

・ 採択地域の支援（一斉支援）

9/26 キックオフミーティングの開催 2/14 ～ 15 経験交流ミーティングの開催

・ 各採択地域にて地域担当者が個別に支援

・ 広報事業：ウェブサイトの構築、採択地域の成果報告会の支援など



2007年度の主な成果

1. ESD を地域で推進するしくみの検討

「ESD を地域で推進するしくみ」の具体的なドラフトは作成することができなかったが、全国ミーティングの研究会で、地域で ESD を推進するための課題とその打開策について話しあい、その内容をまとめることができた。

2. 「ガソリン税を地球税に」の提言に 15 の団体、50 名の個人から賛同を得た

社会が注目するテーマに関し、持続可能性の視点から提言を行うことで ESD の実践の一つのあり方をアピールできた。

3. 政府の ESD 推進体制強化

与党のみとはいえ ESD 推進議員連盟が発足した。また、その影響もあり、ESD 円卓会議が設置された。円卓会議のメンバーに、ESD-J 代表理事および ESD-J 関係者が多数入り、今後の政府への働きかけのよいしくみができた。

4. ESD のモデル地域支援

10 地域で 2 年間のモデル事業を終了し、それぞれに学べるポイントを抽出した。また、新規に 4 地域が採択され、第二期モデルとしての発展が期待される。また、この事業を通じて、地方 EPO と連携の基礎を築くことができた。

課題

1. 調査と提言づくりのプロセスを年度の最初にしっかりとデザインし、事務局スタッフや資金などのリソースを配分しておくこと
2. 議連を超党派で立ち上げていくことができなかった。野党への働きかけが課題
3. 政府や議連や円卓会議関係者などの心を動かすだけのわかりやすい ESD の具体的な目標や方策ならびに評価指標を ESD-J として集約して提言すること
4. ESD 促進事業を通じて、ESD の内容と、それを継続的に実施していくためのしくみ、また ESD 推進に必要な支援の方法について明確化すること

国際ネットワーク推進事業情（国際 PT）

2007年度の主な事業

① アジア ESD 推進事業（Asia Good ESD Practice Project : AGEPP）

126 ページ

アジア地域における ESD 事例共同調査と 7 カ国の実践交流サイトの運営をした

4/26 ~ 29 韓国トンヨン市において第二回 AGEPP 国際会議を開催

11/24 インド・グラジャート州の ESD 事例現地調査

11/27 国際環境教育会議（インド・アーメダバード）にて AGEPP を紹介する特別セッションを実施

3 月末日現在、7 カ国から 28 事例が提出される



② 国際ネットワークカフェ 136 ページ

国際的な ESD 情報の共有と国内の会員間の交流の場づくりを目的として、ミニセミナーを継続的に開催した

第 1 回（6/16）、第 2 回（7/10）、第 3 回（10/2）、第 4 回（11/10）、第 5 回（1/25）



③ 英文ウェブサイトの充実

海外の動きを国内へ、国内の動きを海外へ発信した

④ 国際機関とのネットワークづくり

連携交流団体のしくみをつくった



⑤ 「姉妹都市・姉妹校」をベースとした ESD 展開のモデルづくりを検討

2007 年度は ESD-J としての直接的な取組みには至らなかったが、理事が地域の取組みのなかで愛媛県・内子町へ姉妹都市との関係を通じた ESD の取組みを提案した。

⑥ 国際ネットワーク推進の方向性の検討

ESD-AP 設立準備委員会を解散し、ESD のアジアネットワーキングにむけたイニシアチブを ESD-J がとることで共同議長と合意。共同議長のもとにあった 2 つのメーリングリストに所属していたメンバーリストを ESD-J で引き受けた。

⑦ 国際的な ESD 推進への貢献

5/4 第 15 回国連 CSD（持続可能な開発委員会）会合・ESD ハイレベル会合（ニューヨーク）にて日本の取組みを発表

5/4 アーメダバード環境教育国際会議準備会合（ニューヨーク）に、検討委員として参加

7/6 ダーバン環境教育国際会議（南アフリカ）に参加し日本の取組みを発表、同地でのアーメダバード環境教育国際会議準備会合に参加

11/23-36 アーメダバード環境教育国際会議（インド）にて、サイエンティフィック・コミティー委員として参加、AGEPP ワークショップを開催

2007年度の主な成果

1. アジアにおける ESD の事例収集と連携

アジアにおける ESD 事例をさらに本格的に収集するという目的はおおむね達成された。また、秋にインド・アーメダバードで行われた世界環境教育会議に参加し、アジアの連携事例として発表し、欧州を含む世界各地の人びとに存在をアピールできたのも貴重な成果だった。アジアの国々をつなぐ ESD-J の存在感を示せた。

2. 会員間の交流の場を創出

「ネットワークカフェ」を 5 回実施し、ESD の視点をもって世界各地で行われている事業を共有する機会を提供し、会員間の交流の場をつくることができた。また、学生のボランティアを巻き込むこともできた。

3. 英文サイトの情報量アップ

これまでに ESD-J が収集してきた日本国内事例を英訳し、ウェブサイトに掲載の準備ができた。

4. 「姉妹都市と ESD」において自治体への働きかけが具体化

愛媛県内子町へアプローチをし、来年度事業として ESD の取組みが予算化された。

課題

1. AGEPP の収集事例そのものと、収集した過程とメカニズムの価値などを、どのように出版物などにアピールできるかが課題
2. ネットワークカフェは、国際 PT 単独の運営ではなく、ESD-J 全体としての事業として位置づけ、各 PT から担当者を募るなど、'国際' の枠にとらわれることなく実施していくことが効果的
3. 英文ウェブサイトの方針（目的、目標、掲載内容に反映してくるものである）の検討が必要
4. ESD の 10 年中間年にあたり、国内外とも国際 PT の役割を確認、検討することが必要であり、他の PT との連携も考えながら、日本ならではのユニークな活動を展開することが必要

研修および普及啓発事業（研修 PT）

2007年度の主な〈事業〉

① ESD 入門研修の開発と実施

（150 ページ）

昨年開発したテキストブックやすでに行ってきた研修をベースに 30 分、1 時間、半日、1 日バージョンの研修シナリオと、プレゼンテーションデータを作成した。



② 出前講座・研修・ワークショップの開催

（154 ページ）

- ・教員むけ研修（6 件：文科省・茨城県 各 3 回）
- ・市民むけ研修（8 件：環境カウンセラー研修、環境教育リーダー研修など）
- ・行政職員むけ研修（1 件：環境省主催の地方自治体環境教育担当者研修）
- ・学生むけ講義（2 件：宮城教育大、岐阜県立森林文化アカデミー）
- ・その他・イベントなど（11 件）



③ ESD コーディネーター養成研修の開発・実施

（28 ページ）

5/7、6/18 研修 PT による検討

全国ミーティングの研究会で「ESD コーディネーター養成講座」を実施、ESD コーディネーターの役割・必要な能力を整理した。



④ 大学むけ研修の開発と実施

6/18 研修 PT で検討

愛媛大学・現代 GP 担当教授らのヒアリングに対応

④ 理事研修（目標設定と評価）

4/15 評価ワークショップ：各 PT が作成した評価シートをもとに議論、評価シートをブラッシュアップ

9/17 政策提言ワークショップ：NPO 法成立に学ぶ講義（シーズ松原氏）と、政策提言の方向性の議論

2007年度の主な〈成果〉

1. ESD 入門研修のツールとプログラム開発

ESD 入門研修の基本的な流れ、ツールができたことで、ESD 入門のクオリティの向上と事前準備の効率化が図れた。

2. 出前講座・研修・ワークショップの開催

研修 15 件、イベント 11 件において講師派遣を実施し、主催者からの反応はおおむね良好、2008 年度に継続の依頼も数件ある。

3. ESD コーディネーターの養成

コーディネーター養成の入門コースを開発するには至らなかったが、全国ミーティングの研究会で「ESD コーディネーター養成講座」を実施、ESD コーディネーターの役割・必要な能力を整理した。

4. 組織運営能力の向上

今年度より PT ごとに評価シートを作成した。また、外部講師を招き「ESD 推進法」をすすめるさいの手順や組織的負担のイメージを共有することができた。

課題

1. ESD 入門講座の充実とステップアップ講座の開発と実施が必要

2. 講師派遣において、謝金の基準額を ESD-J としてきちんと整備することが必要

3. ESD コーディネーター養成の入門コース、ステップアップコースを開発することが必要

4. 大学むけ研修の開発について、大学側のニーズが読めないこともあり、その取組みに力を割くことができなかった。

5. 評価シートの作成には多くの時間を割いたが、まだまだ時間が不足していた。事業計画と事業評価のあり方に工夫が必要

情報収集・提供および出版事業（情報 PT）

2007年度の主な事業

① ウェブページの充実 (166 ページ)

- ・ ESD トピックスの掲載と事例や Q&A 情報の更新
- ・ 地域の ESD を共有する「地域 ESD ブログ」をスタート
- ・ サイト構成のリニューアルの仕様検討
- ・ 48 万ページビュー / 年間



② メールマガジンの発行 (170 ページ)

- ・ メルマガの発行：5 本（7 月、8 月、10 月、11 月、2 月）臨時号 3 本（7 月、12 月、2 月）
- ・ 配信先：会員約 400 件、非会員約 1,400 件

③ 「ESD レポート」および「地域プロジェクトレポート」の発行 (168 ページ)

ESD レポート発行：12 号（10 月）、13 号（12 月発行）、14 号（3 月発行）

地域プロジェクトレポート発行：10 月、12 月、3 月

発行部数：6000 部 発送先：600 カ所



④ ESD & ESD-J リーフレットの発行 (170 ページ)

ESD および ESD-J を紹介する配布用のツールを開発

B5 版 12 ページ 1 万部印刷



⑤ ESD ブックレット「ESD-J2007 活動報告書」の発行

地域での協働モデルづくりの成果を中心に作成する

A4 版 200 ページ 900 部印刷

2007年度の主な成果

情報発信に関して、メルマガや地域ブログなど新たな試みにチャレンジするほか、発信情報数を増加するなど、WEB へのアクセス数も目標の 2 倍には到達しなかったが、25% と大幅に向上した。

1. アクセス数が 25% 向上

メルマガなどの発行を通じ、年間の閲覧ページ数を、36 万ページビュー / 年から 48 万ページビュー / 年へ向上させた。

2. コンテンツ掲載数増加

ESD に関するニュースを投稿する「トピックス」の記事数を 24 本→61 本に増発するなど、WEB への情報掲載数を向上させた。

3. ESD 地域ブログのコーナーを新設

地域の活動を ESD-J のサイトを通じて会員自らが発信、対話ができるしくみを設けた。

4. メールマガジンの発行開始

非会員 1,400 名へ不定期ながら、ESD に関する情報を発行することで、会員外への積極的な情報発信に努めた。

5. ESD (ESD-J) 紹介リーフレットの新規発行

ESD および ESD-J について、よりわかりやすい表現で紹介するツールを開発することができた。

課題

1. 今年度実施できなかった WEB ページのリニューアルを実施する
2. メルマガをコンスタントに発行できる体制をつくる
3. 編集者の固定化の改善を図る
4. テキストブック Part2 を発行する

その他（基盤強化 PT・広報 PT）

2007年度の主な事業

① 企業および会員団体との協働事業

9/3、9/14 日能研 社員むけ ESD セミナーの開催

9/27 経団連 自然保護基金での ESD セミナー開催 参加者：40 社、60 名

2/5 NTT グループ CSR 担当者における ESD セミナーの開催



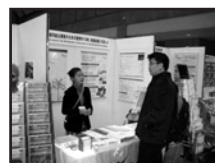
② 会員拡大・ファンドレイジングキャンペーン

・ 国際ネットワークカフェ、学生むけ勉強会など、非会員でも参加できるミニセミナーの開催

・ オンライン寄付サイト ガンバ NPO への登録

・ 全国ミーティングの内容充実と会員割引率の向上

12/13～12/15 エコプロダクツ展へ出展



③ 広報ネットワークづくり

・ ニュースリリースの配送を通じた各省庁の記者クラブとのコミュニケーションづくり

・ マスコミ記者リストへの ESD レポート発送、メルマガ配信

2007年度の主な成果

1. 企業との具体的な協業の実績と足がかり

経団連にて 40 社、60 名の企業へ ESD をプレゼンテーションし、企業セクターへの認知度向上を図ったほか、日能研や NTT グループ CSR 担当者における ESD セミナーの開催などを通じて、企業との具体的な協業の実績と足がかりをつくった。

2. 会員の獲得

メルマガの発行、セミナー参加者への定期的な情報提供などのほか、国際ネットワークカフェ、学生むけ勉強会など、非会員でも参加できるミニセミナーを開催。全国ミーティングの内容充実と会員割引率の向上などを実施し、個人会員を中心に入会者は増えたが、一方で退会者も多く、全体的にはほぼ横ばいとなった。

3. 広報ネットワークの充実

7 月の参院選時の各政党への公開質問状のとりまとめ状況や、地球税のアピールなどを、プレスリリースとして配布する活動のなかで、各省庁の記者クラブとのコミュニケーションづくりを行った。また各メディアのなかの特定の記者との連絡パイプの設定などをすすめることができた。メディアからの阿部代表理事ほかへの接触も緊密になり、ESD に理解のあるメディア関係者とのネットワークづくりを強化しつつある。

課題

1. 2007 年の実績をもとに、より多くの企業へアプローチを図る

2. 新規団体会員獲得にむけたアプローチを積極的に行う

3. ファンドレイジングイベントの実施はなにかの事業と重ねて行う必要がある。

4. 全国紙の環境・教育等の担当記者、論説委員らとの意見交換会や勉強会を発足し、恒常的で深い関係づくりへ進化させる。

5. 全国各地の地方紙の記者らとの接触を図り、それぞれの地域での試みを地域で取材発信してもらえるしくみを構築する。

2007 年度 ESD-J の事業一覧

2007 年

開催日	活動区分	事業内容
4 月 15 日	地域	第 1 回地域コーディネーター会議
4 月 26 ～ 29 日	国際	韓国の統営（トンヨン）市にて、AGGEP の第 2 回会合
5 月 1 日	政策	参議院議員選挙へむけた 5 政党への公開質問状の実施
5 月 19 日	地域	第 2 回地域コーディネーター会議
5 月 19 日	運営	2007 年度 第 1 回理事会
6 月 16 日	地域	地域 ESD 共有サイト開発会議
6 月 16 日	国際	第 1 回国際ネットワークカフェ
6 月 17 日	情報	ウェブサイト企画ミーティング
6 月 17 日	運営	ESD-J の 2007 年度通常総会
6 月 17 日	研修	ESD-J 公開セミナー ～ ESD をめぐる最新事情～
6 月 18 日	研修	研修 PT ミーティング
6 月 22 日	国際	韓国ウィジョンブ 21 との ESD 学習会
7 月 10 日	国際	第 2 回国際ネットワークカフェ
7 月 10 ・ 16 日	地域	第 1 回、第 2 回プロセス抽出ワークショップ in 板橋
7 月 26 日	情報	第 7 回 ESD 関係機関情報交換会議
8 月 10 日	政策	環境省「ESD の 10 年促進事業」で新たに 4 地域が採択
8 月 7 ～ 9 日	研修	茨城県教育委員会 ESD の教員研修
8 月 24 日	情報	情報 PT ミーティング
9 月 3 ・ 14 日	研修	日能研職員むけ ESD 入門講座
9 月 16 日	国際	国際 PT ミーティング
9 月 17 日	政策	政策提言理事ミーティング
9 月 24 日	地域	プロセス抽出ワークショップ in 岡山
9 月 26 日	政策	環境省「ESD の 10 年促進事業」H19 年度キックオフ会議
9 月 27 日	研修	経団連自然保護協議会 ESD セミナー
10 月 2 日	国際	第 3 回国際ネットワークカフェ
10 月 5 日	研修	ESD-J ボランティアグループ 第 1 回勉強会
10 月 9 日	研修	文部科学省 環境教育指導者養成研修講座（磐梯） 講師派遣
10 月 12 日	情報	ESD レポート 12 号発行
10 月 17 日	研修	環境省・文部科学省共催 環境教育リーダー研修（基礎講座） 講師派遣
10 月 23 日	研修	文部科学省 環境教育指導者養成研修講座（吉備） 講師派遣
10 月 23 日	研修	東京家政大学 園庭からはじめるドイツ ESD の取り組み 講師派遣
10 月 29 日	地域	地域プロジェクトチーム会議
10 月 29 日	地域	第 3 回 プロセス抽出ワークショップ in 板橋
10 月 30 日	地域	ESD 地域レポーター会議

開催日	活動区分	事業内容
10月31日	研修	環境省関東地方環境事務所 環境カウンセラー研修 講師派遣
11月2日	情報	ESD 情報プロジェクトチーム会議
11月2日	地域	分野連携ワークショップ 宇都宮市「準備会」
11月3日	地域	岡山大学ユネスコチェア「Kominkan サミット in Okayama」
11月7日	研修	環境省環境調査研修所 環境教育研修（行政職員むけ） 講師派遣
11月9日	研修	ESD-J ボランティアグループ 第2回学習会
11月10日	地域	ESD 分野連携ワークショップ 豊田市「準備会」
11月10日	国際	第4回国際ネットワークカフェ
11月24日	国際	第4回環境教育国際会議「ESD-J アジア推進事業（AGEPP）特別セッション」
11月30日	地域	ESD 分野連携ワークショップ 豊田市「現地ミーティング」
12月3日	研修	ESD-J ボランティアグループ 第3回学習会
12月12日	情報	ESD/ESD-J 紹介リーフレット発行
12月13～15日	運営	エコプロダクツ展 出展
12月16・23日	地域	分野連携ワークショップ 宇都宮市 セッション1～3
12月25日	情報	ESD レポート 13号発行

2008年

開催日	活動区分	事業内容
1月15日	研修	ESD-J ボランティアグループ第4回学習会
1月21日	地域	分野連携ワークショップ 豊田市 セッション1
1月25日	国際	第5回国際ネットワークカフェ
1月29日	運営	ESD-J 理事ミーティング
1月30日	政策	緊急提言 ガソリン税の上乗せ分は「地球税」に！
1月30日	運営	理事選挙 公示
2月2日	地域	関東 ESD 実践者交流会
2月4日	地域	分野連携ワークショップ 豊田市 セッション2
2月5日	研修	NTT グループ CSR 担当者ワークショップ
2月9日	研修	ESD 担い手ミーティング in 北海道 講師派遣
2月14～15日	政策	環境省 ESD 促進事業 経験交流ミーティング
2月16日	政策	環境省 ESD 促進事業 地域担当者ミーティング
2月18日	地域	分野連携ワークショップ 豊田市 セッション3
2月18日	政策	ESD 推進議員連盟勉強会 出席
2月20日	研修	環境省 環境人材育成ワークショップ 出席
2月29日	情報	ESD レポート 14号発行
3月1・2日	地域	分野連携ワークショップ 神戸市 セッション1～3
3月7日	運営	ESD-J 理事ミーティング
3月8-9日	地域	ESD-J 全国ミーティング
3月24日	地域	ESD 分野連携ワークショップ 報告会
3月26日	政策	ESD の10年円卓会議 参加

ESD-J の共催・協力・後援事業一覧

使用 名義	日 程	～迄	事業名	主催団体
共 催	10月27日	11月3日	Kominkan (公民館) サミット in Okayama ―地 域づくりと ESD 推進―	岡山大学、NPO 法人 岡山 県国際団体協議会
	2008 年 3月29日	—	2007 年度 持続発展教育の普及とユネスコス クールに関する協議会	文部科学省、日本ユネス コ国内委員会
広 報 協 力	9月11日	2008 年 2月19日	2007 年度 市民のための環境公開講座	(社) 日本環境教育フォーラム (株) 損害保険ジャパン (財) 損保ジャパン環境財団
	9月14日	—	ネイチャーゲーム 20 周年記念シンポジウム「持 続可能な社会をめざすシェアリングネイチャー の思想」	(社) 日本ネイチャーゲー ム協会
後 援	4月1日	2008 年 3月1日	「ずっと地球と生きる」学校プロジェクト 国 連・持続可能な開発のための教育の 10 年	(社) 日本ユネスコ協会連 盟、読売新聞社
	4月1日	—	次世代への思いやりをカタチに「中部地域の持 続可能な発展教育」拠点準備フォーラム	中部 RCE-ESD、ESD-T
	4月28日	—	シンポジウム「京都 ESD フォーラム～大学教育 におけるネイチャーゲーム・自然体験活動を通 じた ESD・環境教育を考えよう～」	(社) 日本ネイチャーゲーム協会、 NPO 法人 自然体験活動推進協議 会、自然体験学習実践研究会
	6月22日	6月24日	中・四国環境教育ミーティング	中・四国環境教育ミーティ ング実行委員会、(独) 国立 青少年教育振興機構 国立 三瓶青少年交流の家、(社) 日本環境教育フォーラム
	7月7日	—	地域に根ざした食農教育ネットワーク 全国 フォーラム 2007	(社) 農山漁村文化協会
	7月31日	8月5日	ESD へのホリスティック・アプローチ ～アジア 太平洋地域における「つながり」の再構築へ	日本ホリスティック教育協 会、(財) ユネスコ・アジア 文化センター
	8月4日	8月5日	第 25 回開発教育全国研究集会	NPO 法人 開発教育協会
	8月4日	8月6日	食農教育講座 2007	(社) 農山漁村文化協会 長野県農村文化協会
	8月18日	8月19日	ESD 授業デザインフェスタ	ESD 学校教育研究会
	9月1日	2008 年 2月1日	2007 年度開発教育セミナー「ESD を身近に感 じる関西からの発信！私たちのくらしと ESD」	NPO 法人 開発教育協会、 (財) 大阪国際交流セン ター、(独) 国際協力機構
	9月10日	2008 年 5月19日	ACCU アジア太平洋 ESD フォトメッセージコンテ スト「明日への手紙 2007」 及びコンテスト入選作品巡回展	(財) ユネスコ・アジア文化 センター
	11月10日	11月11日	第 18 回アジア女性会議 - 北九州	(財) アジア女性交流・研 究フォーラム
	12月8日	12月9日	国際理解教育シンポジウム in Miyagi	国際理解教育研究センター
	2008 年 2月10日	—	さとうみシンポジウム「真の豊かさとは？古く て新しい理念としての里海を考える」	NPO 法人 黒潮実感セン ター



ESD-J への期待と評価

4月24日～5月9日の間に、ESD-J 会員へ、ESD-J の活動や事業について広く意見をうかがい、団体運営の参考とさせていただくことを目的として、アンケートを実施しました。回収期間が短かったことや、集計作業の関係でWEB への登録に限定していたため、意見の収集は一部の会員の方となっていますが、団体会員5、個人会員23 名の方から貴重な意見をいただきました。会員のみなさまからの積極的な参加表明、叱咤激励、応援メッセージなど、しっかり受け止めて、これからも会員のみなさんと一緒に活動をすすめていきたいと思っています。

質問項目がたくさんあるにもかかわらず、回答にご尽力いただきました会員のみなさま、この場を借りてお礼申し上げます。

また、このような会員からの意見収集は、いままでは事務局のマンパワーの問題でなかなか着手できていませんでしたが、今後は定期的の実施していきたいと思っています。

◇回答数 団体会員 5 個人会員 23 合計 28

Q. 回答者の属性

◇会員区分

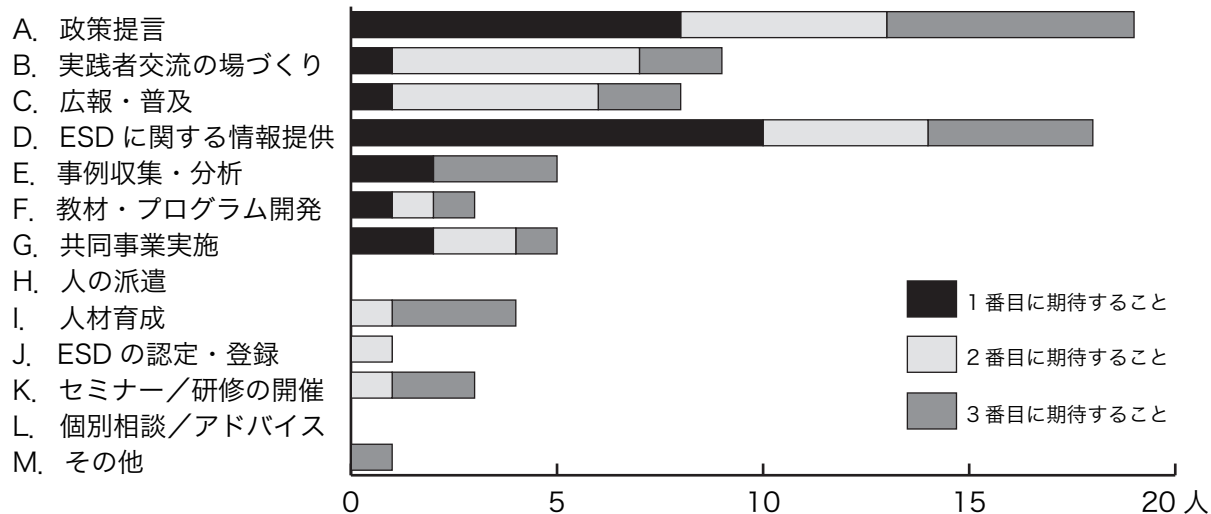
団体会員	回答数	5
個人正会員		9
個人準会員		14
賛助会員		なし
顧問		なし

◇都道府県

岩手県	回答数	3
栃木県		1
埼玉県		4
東京都		15
神奈川県		1
静岡県		1
岡山県		1
愛媛県		1
福岡県		1

ESD-J への期待

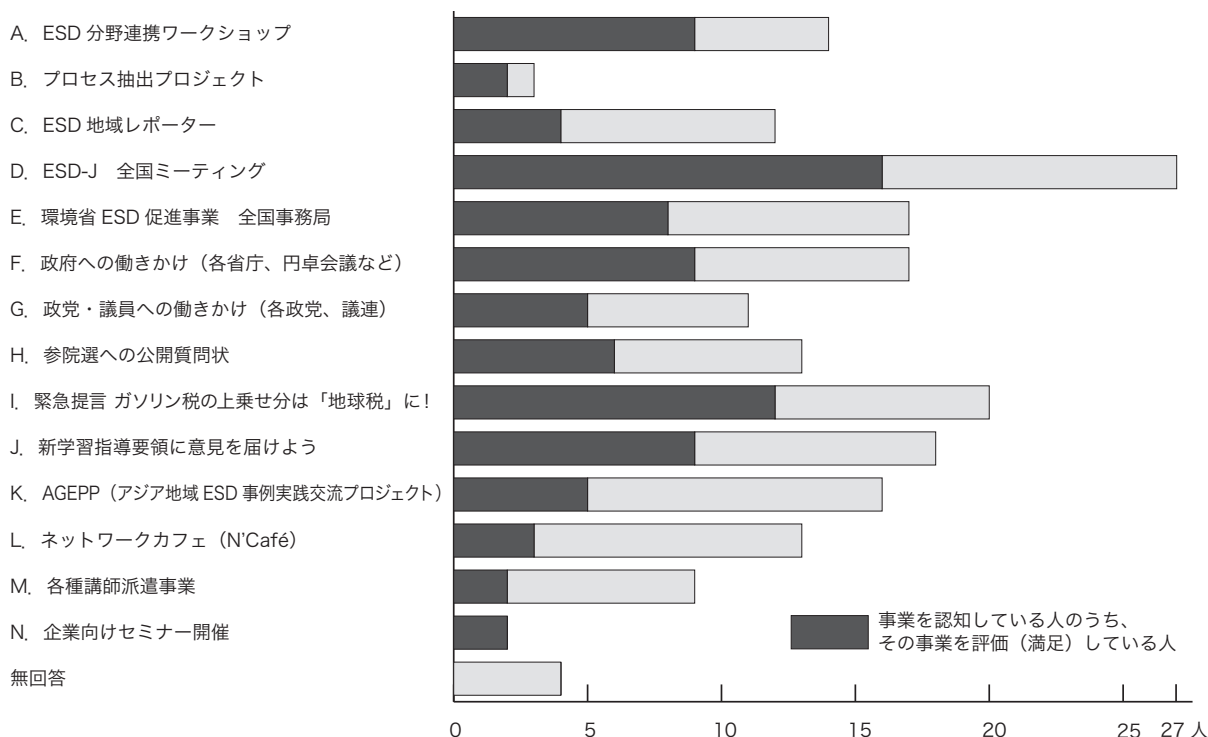
Q. ESD-J への期待する事業を選んでください



期待の大きい事業分野としては、政策提言、情報提供が多かったです。これは地域ミーティング開催地からの意見とも一致していました。そして優先順位第2、第3となるに従い実践者の交流、広報普及、セミナーなどの開催の割合が増えてくるのが特徴的でした。

各事業の 認知度と評価

Q. ESD-J2007 年度事業で、活動を行っていることを知っているものはなんですか。
また、その中で概ね満足できると思われる事業はなんですか（複数回答可）



事業の認知度という点では、全国ミーティングおよび政策提言に関する取組み（地球税の提言、学習指導要領への提言や政府への働きかけ、ESD 促進事業の全国事務局など）の認知度が高く、一方地域プロジェクトや国際プロジェクトの認知度が比較的低かったです。それぞれ WEB や機関誌では広報をしているつもりでしたが、情報発信量の不足もさることながら、事業のわかりやすさ（ネーミングも含めて）などもその原因の一つではないかと推察されます。また、地域プロジェクトは認知度が低い一方で評価は高く、その存在を認知している方にとって、必要性は認識されていると感じられました。

今年度は昨年度に比べ、WEB への記事投稿数を 3 倍に増やし、メルマガに取り組むなど積極的な情報発信に取り組みましたが、事業の認知度・理解度向上のためには、プロジェクトごとに WEB サイトをきちんと用意する、事業内容をわかりやすく伝えるなど、よりいっそうの努力が必要と思われました。

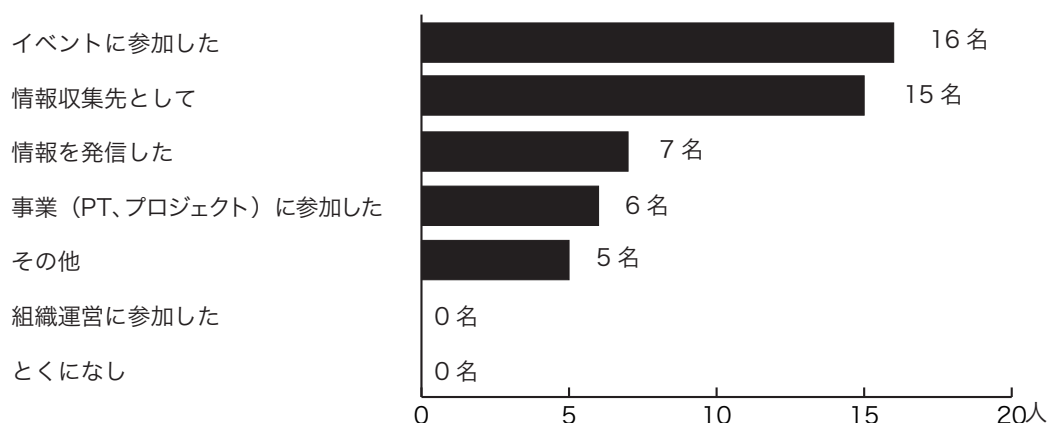
◇ ESD-J の活動（プロジェクト）全般に対するご意見、ご要望など

- ☒ ESD の概念はまだ漠然とした理解に留まっているように感じます。ESD 活動を支援するためにも、ESD で重要な視点についてわかりやすく理論化することが必要と感じています。
- ☒ 今春の全国ミーティングで感じたのは、関係者の苦労の積重ねのおかげで、ようやく少しずつ日本のなかで ESD が一定の流れになってきたのかな、と思いました。実践者の顔の見える関係を大切にしつつ、企業との協働や、政府・政党への政策提言などで社会のしくみを大きく変えるところまで、たいへんですが、流れはきているので、期待しています。

- ☒ それなりによくやっているといます。ホームページなど、のぞいています。しかし、いずれの側面も、（私にとって）なかなかピンとこないものが多く、隔靴搔痒の感があります。くりかえし、また、折に触れ、広報に努めることだと思います。
- ☒ 出版されるもののクオリティの高さには感心しています。環境省の ESD 促進事業についてブロックごとのリーダー交流会はぜひつづけてほしいと思います。
- ☒ メール情報はほとんどチェックしているつもりですが、それぞれの事業の分類分けがよくわかりません。
- ☒ どうしても東京（首都）に事務所があることで、地方からの視点や農林水産業に関する分野が弱いと感じていますが、一方で東京でしかできないこと（とくに国政に絡むところ）については全国へむけた情報収集・発信、政策提言に今後も力を入れてほしいと思っています。
- ☒ ESD という言葉自体まだまだ浸透していないと思うので、政策提言などの活動をより活発に行う必要があると思う。
- ☒ 学校や教育機関外の市民による取組みは、ESD-J を通じて全国に広がっているように思える一方で、学校内・大学内の取組みについての連携があまりよくみえないので、後者の取組みの情報発信にも力を入れていただきたいし、またその協力もしたい。
- ☒ 事務局と理事だけで、ESD-J を運営するのではなく、会員が参加できるような活動をすすめるべきである。
- ☒ 国際ネットワークの活動に予算をとるべきである。また、国際ネットワークの活動をすすめるべきである。
- ☒ ESD-J としていろいろな問題に対して、「それは ESD（-J）とこういうかかわりがある」といった発信が必要ではないかと思います。

ESD-J とのかかわり、運営

Q. みなさんはこの1年、ESD-J とどのようなつながりがありましたか（複数回答可）



会員の方の ESD-J とのかかわりは、イベントへの参加がもっとも多く、ついで情報収集、情報発信、PT などへの参加でした。積極的に回答をいただいた方の割合として考えると、参加性は決して高くなく、ネットワーク団体として、より積極的な会員参加を促す必要性が改めて浮きぼりになりました。

Q. 多くの会員がより積極的に ESD-J の活動に参加するためには、なにが必要とお考えですか

- ☐ 専門職についていなくても、なにかボランティア的に事務局運営のお手伝いができたりすると、会の組織やいまのようなことが進行しているのかなども実感できるのかもしれない。
- ☐ ボランティア制度ができたのは進展ですよね。どれくらいの規模で動いているのでしょうか。ボランティアの顔ぶれや動きが伝わってくる場があるとよいですね。
- ☐ 教育の分野にもっとかかわるようにする。とくに学校教育。
- ☐ 参加しやすいセミナーが体系化され根気強く継続的に実施されていると、企業でも学生でも関心をもった人が、そこへの参加をきっかけにかかわりやすい。
- ☐ 海外の ESD 情報提供などに協力したいと思っても、メーリングリストで一方向的に発信するのは踏みとどまってしまいます。
- ☐ 会員の方は各地でアクティブに活動している方が多いと思います。情報収集のみならず、情報発信や情報交換、ネットワーキングに ESD-J を活用したいと思っている方や、運営に深くコミットしたい方も多いはず。そうした人びとをうまくとり込めるような場（ウェブサイト上に会員むけページをつくりテーマごとに議論の場をつくる、など）の提供が必要だと思います。
- ☐ PT の活動報告などもなされているのでしょうけれど、なかなか目に入りにくくなっているようです。
- ☐ 事業に関連する活動がよくみえない。事業とはその目的を充実できる最大の手段となります。
- ☐ 流れてくる情報が個人会員（とくに準会員）にとって、ときどき、敷居の高いものに感じられます。個人会員同士がつながることができる場（ネット上でもいいと思います。SNS の利用など）が ESD-J のなかにあれば、そこから新しいものが生まれることもあるのではないのでしょうか。
- ☐ 情報収集を主にしてまいりましたが、今後は事業（PT、プロジェクト）へ参加をさせていただきたく存じます。
- ☐ 団体会員としては、自分の団体の仕事が優先されるなかで、どのように ESD-J のプロジェクトにかかわっていけるか。意識しつつも、かぎられたマンパワーのなかで仕事をしているとなかなか積極的に動く余裕がなく、申し訳なく思っています。当会についていえば、少しずつスタッフの ESD、そして ESD-J についての情報を共有して理解度を高める段階にあると、と考えています。
- ☐ 地方にある団体としては、ESD-J の事務所でなにが起きているのかは正直みえにくい。全国ミーティングなどは隔年に 1 回は地方で行う、または輪番で地方をまわる、といったことも必要ではないか、と思う。
- ☐ 事務局が自分でやるのではなく、会員がやれるように配慮することが必要です。
- ☐ 会員の ESD-J の活動への参加というのは、私の場合はそれぞれの所属組織の活動を ESD を意識しながら充実発展させること、それを ESD-J にフィードバックすることじゃないかと思っています。



ESD-J の ネットワーク拡大

Q. ESD-J へより多くの団体や個人の参加を促すためにどのようなアクションが必要だと思いますか？

◇事務局として_____

- ☐ 今後のビジョンと長期計画としてなにをどのように実現していくかわかりやすく図式化し、どの部門なら参加できるか具体的にイメージできるとよいと思う。
- ☐ ESD の徹底的な咀嚼。もしくは開き直り。
- ☐ ①より多くのメディアへの露出 ②さらに多様な分野のリーダー & キーパーソンへの接触・交流 ③企業、行政、市民団体などによる講座への積極的な講師派遣 ④地方での ESD イベント開催 & 展示会などでの出展支援 ⑤求心力のある（わかりやすい）重点事業展開
- ☐ 頭でっかちの研究者や理論だけやっている人ばかりではなく、ESD を実践的に理解した、ESD 的な暮らしや生き方をしている実践者を増やす、紹介する。
- ☐ 「ESD-J に期待すること」にあげられているような項目に対応できるような、余裕のある人数と技量をもったスタッフの確保
- ☐ 各団体の HP のトップページからのリンクは徹底しているのだろうか？
- ☐ ESD-J のネームバリューを高める広報（ロゴを個人のウェブサイトやブログツールで活用してもらう、など）＋ネットワーク参加への魅力づくり＋なんといっても ESD 自体の認知度アップ（ESD をもっとわかりやすく）戦略！
- ☐ 事例を収集し、その関係者に ESD-J とのかかわりを示しながら、仲間になってもらう。
- ☐ なんらかのプロジェクトが、新聞などでとりあげられる（わかりやすく解説される）ことが、やはり一番効果的なのでは。
- ☐ 事務局の方々のご苦労がしのばれますが、会員組織だけでなく、本当に多分野をつなぐハブの役割が必要ではないでしょうか。とくに今後コミットメントが必要だと思われる分野への働きかけが必要だと思います。寄ってきたところだけで ESD をすすめていくのは、ちょっとちがうような気もしています。

◇会員それぞれのアクションとして_____

- ☐ もう少し気軽にメーリングにも情報提供できるような雰囲気があれば、アクセスしてこんな活動をしているとか協力をしてほしいなどが発信できるように思う。
- ☐ 平易なことばで。印象に残る切り口で。
- ☐ ESD に関する各地域での勉強会、ワークショップなどの開催。小中高校との連携。
- ☐ 会員自身が ESD について深く理解し、活動するときに、さまざまな人たちに理解してもらえるように、ESD についてもっとわかりやすく説明する。
- ☐ ①それぞれの所属団体、地域で学習会の開催 ②活動仲間への口コミ伝達 ③イベントなどでの出展広報 ④地方紙・メディアへの積極的なアプローチ
- ☐ ESD 的な暮らしや生き方をしている実践者を増やす、紹介する。

- ☐ ESD-J を盛りあげようと思う心？
- ☐ 自分のやっていることを、いつも ESD-J との関連や文脈で考える。
- ☐ 会員紹介制度などのインセンティブ（会費割引、関連図書進呈、5 人紹介するとゴールド会員！？などなど）
- ☐ 自分の生活から ESD につながることをどんどんみつけ、発信することが ESD を個人に広げる鍵になるように思います。
- ☐ 個人認定書などがあれば広く活躍しやすいのではないかと考えます。
- ☐ 「持続可能な開発」のための教育の、具体的なさまざまなありかたをそれぞれの現場から発信していくことが必要。
- ☐ なんとか時間をつくって、とにかく参加すること。
- ☐ いろいろな地域での個別のネットワークができているところもあるようなので、日本各地にそれができるような努力が必要ではないか。
- ☐ 自分の所属する組織や活動を ESD として位置づけること、に尽きると思います。そうしてつながりを広げ活動が発展することが ESD を広げる力になると思います。ESD はそういう社会のあり方の総体のことだと思います。

Q. ESD-J へのご意見、ご要望など

- ☐ これからの持続可能性のキーワードはまさに農にあると思います。農はカルチャー。カルチャーすることで世界を平和に導き、調和のとれた関係が築かれることが願いです。
- ☐ ESD-J にしかできないことを、多様な人材が協力して、実現できる一年になるとよいですね。なかなか貢献することができませんが、なんらかのかたちで活動にかかわり続けていきたいなあ、とつねに思っております。
- ☐ スタッフや中心の理事たちが燃え尽きないよう、アットホームな雰囲気での関係者の勉強会（関係者が交代で少しじっくり話をするなど）などを、事務局会議などの前後に企画して、人間的なコミュニケーションを深めるなど、持続可能にがんばってください。
- ☐ 事務局のスタッフの方々にも、ESD 自体の鍵である「参加」を強化して会員をもっと活用していただきたいと思います。
- ☐ 引き続き会員として応援しておりますし、自分の周りでできることをやっていきたいと思います。

※ ESD-J の情報発信・共有に関するアンケート結果は、本報告書の 172 ～ 175 ページに掲載しています。